

令和7年度 一宮小学校 総括評価表 I (確かな学力の育成)

| 重点課題 | | 重点目標 | | 評価指標と活動計画 | | 評価 | | 学校関係者評価 | 次年度への課題と |
|--|---|--|---|---|---|---|----------|----------|----------|
| | | | | 評価指標 | 活動計画 | | 評価指標の達成度 | 学校関係者の意見 | 今後の改善方策 |
| <p>課題解決に向け自ら取り組み、難しいことに粘り強く取り組むこと、課題がある。</p> <p>語彙力が少なく、自分の考えに自信がもてない児童が立てて説明すること等にも課題がある。</p> <p>文章をよむことに抵抗があり、内容の正確な読み取りや活用に課題がある。</p> <p>読書が苦手な児童が多い。</p> | <p>I) 確かな学力の育成 自ら学び考える子どもの育成</p> <p>① 主体的に学ぶ意欲を高め、自ら考え、判断し、表現する学習活動を推進する。</p> <p>② 一人ひとりの個性や能力に応じた指導に取り組む、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。</p> <p>③ 言語活動を充実し、表現し、伝え合う力(コミュニケーション力)を育成する。</p> <p>④ 家庭学習の充実と習慣化を図る。</p> <p>⑤ 読書活動を推進する。</p> | <p>① 児童・保護者アンケートによる「学習意欲」の達成率80%以上</p> <p>②-1 単元テストについて国語・算数の年間平均点が 1～3年生 80点以上 4～6年生 70点以上 が80%以上</p> <p>②-2 児童・保護者アンケートによる「学習内容の理解」の達成率80%以上</p> <p>③ 児童・保護者アンケートによる「相手によく伝わる話し方・書き方」の達成率70%以上</p> <p>④ 児童・保護者アンケートによる「家庭学習の時間」の達成率60%以上</p> <p>⑤ 読書の達成率50%</p> | <p>① 学習意欲に関して、達成率は児童92%、保護者71%となり、児童は指標を上回り、保護者は指標を下回る結果となった。</p> <p>②-1 単元テストの年間平均点については、1～3年生、4～6年生ともに100%となり、指標を達成できた。</p> <p>②-2 学習内容の理解に関しての達成率は、児童86%、保護者90%となり、児童とも指標を上回った。</p> <p>③ 達成率は、児童96%、保護者71%となり、児童は指標を大きく上回り、保護者は、指標程度の結果となった。</p> <p>④ 家庭学習時間について、児童65%、保護者47%となり、児童は指標を上回り、保護者は下回っているが、昨年度よりは上がっている。</p> <p>⑤ 読書の達成率は、児童43%、保護者34%であり、指標を下回っており、昨年度と変化がない。</p> | <p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>重点目標①については、学校からの課題が十分にできていないと自覚している児童が一定数いる。保護者からのアンケート結果にも、同様の結果が見られるため、家庭学習の取り組みせ方に課題があることがわかった。</p> <p>重点目標②については、少人数を活かした個別指導により、力がついてきている。児童の学習意欲は指標を上回ることができているため、引き続き児童の興味・関心を高めることを意識しながら指導を継続する。</p> <p>重点目標③については、表現する回数を重ねること、相手にわかりやすく書いたり話したりすることへの抵抗感が減っていることがアンケート結果から分かる。</p> <p>重点目標④については、手引きは作成したが、十分活用されているとはいえない。継続して活用できるように取り組みが必要である。</p> <p>重点目標⑤については、読み聞かせや図書委員会によって読書推進を進めたが、読書量に個人差が見られる。</p> | <p>① 児童の学習意欲は高い一方で、保護者アンケートの結果が評価指標を下回った。これは家庭学習の充実に課題があるためと考えられる。今後も家庭学習の重要性について、保護者への啓発活動を継続してほしい。</p> <p>② 学習の基礎・基本については、概ね定着していると見受けられる。今後は、ICT教育のさらなる推進に向け、タブレット端末をより有効に活用した授業展開を期待する。</p> <p>③ 表現力(話す・書く)の向上を目的として、語彙を増やす取り組みや、思考を伴うアウトプットの場を拡充してほしい。</p> <p>④ 宿題には真面目に取り組んでおり、学習への意欲が感じられる。一方で、興味・関心に基づいた自主学習にはまだ課題があるようだ。自発的な学習を促せるよう、各家庭への助言を継続してほしい。</p> <p>⑤ 読書習慣の定着は長年の課題である。読解力の向上や語彙の拡充において読書は非常に有効である。始業前の図書室開放や朝の活動の読書の充実、清掃時間後の読書の導入など、読書を日常生活の中でルーティン化するのはどうか。これまでの推進策に加え、検討いただきたい。</p> | <p>① 児童の学習意欲は指標を上回っているため、今後も、児童の興味・関心を高め、主体的な学習ができるよう教材研究を行う。授業の流れが分かるように板書や活動の場の設定を工夫する。</p> <p>② 今後も個に応じた指導を継続し、長所を生かせるような工夫が必要である。ICT機器やタブレット端末を有効に活用し個別最適化された学びを実現していく。</p> <p>③ 今年度、児童の意識が高まっているので、次年度も継続して、相手に分かりやすく伝えたり、書いたりする機会を設ける。</p> <p>④ 集中して家庭学習に取り組むことに課題が見られる。今後も家庭への理解と啓発を継続する。</p> <p>⑤ 今年度実施した【本読みカード】、【「多読賞」の表彰】、【おすすめの本の紹介】、【ライブラリーデー】、【縦割り班読書】等は、継続して行う。さらに、児童の読書に対する意欲を高める手立てを取り入れていく。</p> | | | |
| | | <p>①-1 自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いて応えたりする場を設定する。</p> <p>①-2 導入時に本時の目標を提示し、終末には本時のまとめと振り返りの時間をとる。</p> <p>②-1 個別学習を中心に、児童個々の学力に応じた指導を展開する。</p> <p>②-2 週2回、朝ドリルの時間を設定し、学習内容の定着を図る。</p> <p>③-1 各教科の授業の中で、書く時間や発表する時間を増やしたり、根拠を明らかにした発言を促したりする。</p> <p>③-2 自分の考えを文章で表現したり、タブレットを使用したりする場を設ける。</p> <p>④ 家庭と連携しながら、学年に応じた家庭学習の進め方の指導を行う。</p> <p>⑤-1 朝の読書タイムの充実や図書室の利用促進を図るとともに、担任の読み聞かせや本の紹介を行い様々な本と出会う機会をつくる。</p> <p>⑤-2 おすすめの本(たからばこ)の紹介をし、掲示していく。</p> | <p>①-1 自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いて応えたりする場を充分に確保することができた。</p> <p>①-2 授業の流れが見える板書の工夫や既習の事項を確認し、見通しをもって課題に取り組めるようにした。</p> <p>②-1 各担任が児童の実態をつかみ、個々に応じた学習を行ってきたが、学力面での個人差が大きい。</p> <p>②-2 朝ドリルの時間を利用して、学習内容の定着を図った。</p> <p>③-1 各教科を通して、各単元のまとめとして、自分の考えを書いた。また、全ての教科において発表する活動を多く取り入れている。</p> <p>③-2 発達段階に合わせて、文章を書いたり、タブレットを使用しまとめたりすることができた。</p> <p>④ 家庭学習の手引きを使って、児童や家庭に提示した。</p> <p>⑤-1 図書委員会を中心に読書に関する様々な活動や担任・ボランティアによる本の読み聞かせや紹介などを行った。</p> <p>⑤-2 全校児童がお薦めの本を紹介することができた。</p> | | | | | | |

「総合評価」における「評定」の基準 A: 十分達成できた、 B: 概ね達成できた、 C: 達成できなかった